

あなたに贈る健康へのメッセージ —— 知ってください病院のこと、身体のこと

2018
第23巻第3号
冬

医科大どおり

CONTENTS

- 認知症センター紹介
- メディカルサポートチーム新設
- 病棟紹介 (病院1号棟4階西病棟)
- スペシャリスト紹介 (ソーシャルワーカー)
- お知らせ
- 研修医・指導医紹介
- はじめまして
- 私の好きな風景
- 医科大Q&A



横山さま

- おとうさん 裕介さま
- おかあさん 弥生さま
- 赤ちゃん 仁(じん)くん
平成29年12月1日生
3,270g 男の子



はじめまして!!

1人目を医科大でお世話になってから、「2人目も医科大で!」という思いをもっていました。特に母乳育児のことについて丁寧に教えていただいたので、1人目も完母(完全母乳)で育てることができました。また、38週の「助産師外来」もとてもよかったです。助産師さんとゆっくりお話をしながら、心配なこと、楽しみなこと、頑張りたいことなども雑談の中から聞き取っていただきました。出産してすぐ子供と私に会いに来てくださって、助産師さんがますます身近に感じられました。先生方も毎回不安なことがないかなどたずねてくださったり、産後も退院まで細やかな声かけや気配りをいただいていたので、安心して過ごせました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

医科大どおり

2018年 季刊誌 第23巻 第3号 発行/金沢医科大学病院

編集/金沢医科大学病院ニュー入編集委員会

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度先進医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

- 当院は、医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。
- 人間としての尊厳や人権が尊重され、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
 - 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
 - 十分な説明と、情報提供を受けたうえで、ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
 - 治療のどの段階においてもセカンドオピニオン(他の医療機関の医師の意見)を求めることができます。
 - 診療記録の開示を求めることができます。
 - プライバシーは尊重され、個人情報には厳重に保護されます。
 - 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。

患者さんへのお願い

- 当院は、大学病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。
- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
 - 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
 - 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
 - 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
 - 当院は教育・研修施設として医学生・看護学生等の臨床教育実習を行っておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

私の好きな風景

厳冬の白山を背にして、真剣にクロスカントリーの練習に挑んでいる二人のスキーヤーが印象的だった。

- 撮影場所 白山市白峰



撮影:出版メディア課 中谷 渉

お答えします! 医科大Q&A

Q 風邪薬を購入するときに記載されている一類・二類などの表示の意味と、薬剤師がいないと購入できない薬のことを教えてください。

A 医薬品には医師の処方箋が必要な処方薬(医療用医薬品)と、医師の処方箋がなくても自分で選んで買える市販薬(要指導医薬品と一般用医薬品)があります。市販薬を選べるように、副作用などのリスクの程度に応じて分類し、分類ごとに専門家が適切に情報を提供し相談対応を行うことが決められています。(記:薬剤部)

市販薬(分類)	対応する専門家	文書での情報提供
要指導医薬品 (一般用になって3年以内の医薬品、劇薬、毒薬)	薬剤師	義務 (使用者本人に直接販売)
一般用医薬品	第一類医薬品	義務
	第二類医薬品	努力義務
	第三類医薬品	規定なし



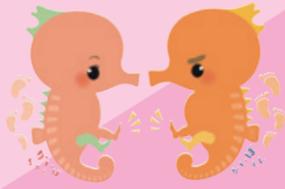
金沢医科大学病院外観

病院の理念

私たちは「生命への畏敬」を医療活動の原点として次のような病院を目指します

- 患者さん中心の安全で質の高い医療を提供します。
- 人間性豊かで有能な医療人を育成します。
- 新しい医療の研究・開発を推進します。
- 地域の医療機関と協力し地域の医療福祉の向上に貢献します。

認知症センター紹介



認知症センターについて

当院では、病院中央棟2階に認知症の診断と治療に特化した「認知症センター」を2017年7月に新設いたしました。石川県における認知症治療の拠点として、診療、医療福祉相談、地域医療・福祉機関とのネットワーク作り、研修会の開催などを通して、認知症患者さんやそのご家族が、安心して自分らしく暮らし続けるお手伝いができるばと考えております。おひとりで悩まずお気軽にご相談ください!



認知症センター外観

診察室、神経心理検査室、相談室

センターのご利用方法

現在、医療機関にかかっていない方

お電話で下記へご連絡ください。

☎ 076-286-3511 (代表)

● 認知症センター【内線5429】

● I (アイ) ブロック受付【内線5610】

現在、医療機関にかかっている方

通院中の医療機関を通じて、当院地域医療連携室にご連絡ください。

☎ 076-286-3511、076-218-8219

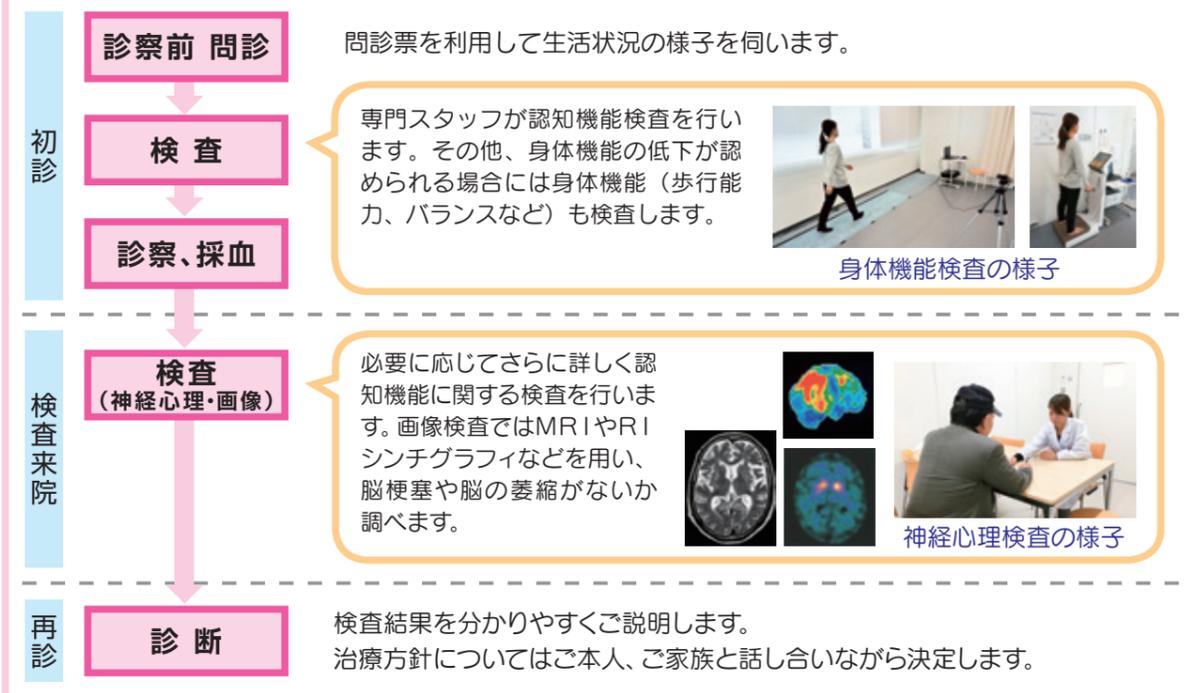
FAX 0120-076-286 (フリーダイヤル)

受付時間

月曜日～金曜日 9:00～13:00

※初めて受診される方には問診票の記載や必要に応じて各種検査を受けていただきますので、時間がかかる場合があります。出来るだけ早い時間帯に来院いただきますようお願いいたします。また、日常生活をよく知るご家族からもお話を伺いますので、可能な限りご家族同伴でお越しください。

基本的な流れ



上記は基本的な流れを示しています。患者さんの状態によってはさらに詳しい検査を実施することもあります。

(記：認知症センター センター長 森本 茂人)

メディカルサポートチーム新設

当院では、2017年秋に「メディカルサポートチーム（救急医療支援チーム）」を新設しました。石川県内のイベントに派遣し、医療的支援を提供するためです。これまでもイベント開催時には救急搬送患者の受入体制を整備してきましたが、主催者側からの救急要請を受け入れるだけでは



メディカルサポートチーム

重症患者の対応に限界がありました。「現地で一次救命措置ができていれば…」と悔いの残る場面にも遭遇しました。そこで、各種イベントで発生する急な傷病に対し、救急医療支援チームを派遣する能動的医療体制を構築することにしました。県内初のイベント対応型医療チームです。

このメディカルサポートチームには救命救急科医師1名、内科系または外科系医師1名、看護師2名、および事務職員1名の計5名を基本編成として、2チーム結成しています。メンバーはこの中から、イベントの規模や要請に合わせて選出します。出勤時は各種救急医療キット、人工呼吸器および検査装置等を搭載した医師派遣用自動車「ドクターカー」に搭乗し、緊急時の初期対応に万全を期します。

これまでに2017年9月16日（土）～18日（月）にかけて行われた「ツール・ド・のと400」と、10月29日（日）に開催された「金沢マラソン2017」に出動し、転倒



「ツール・ド・のと400」の会場にて

によるけがなどの応急処置を行いました。

「メディカルサポートチーム」の派遣がイベント参加者への安心と安全の提供となること、さらにイベントの後方支援を通して石川県における地域貢献の一助となることを願ってこれからも出動していきます。

(記：小児科 科長 犀川 太)

病棟紹介 (病院 1 号棟 4 階西病棟)

病院 1 号棟 4 階西病棟は、妊娠・出産に関わる産科・新生児と、女性の疾患に対応する婦人科の患者さんが対象の病棟です。妊娠・出産そして育児という女性のライフサイクルをサポートし、女性特有の疾患の看護を行っています。病棟の助産師が外来に出向き、周産期外来・助産師外来・母乳外来で指導や相談を行っています。病棟ではマザークラス(両親学級)を開催しています。

また、スタッフは国際認定ラクテーション・コンサルタント(IBCLC)の資格取得を目指しています。IBCLC は、一定水準以上の技術・知識・心構えを持つヘルス提供者の資格です。

女性の方に安全で安心できる入院生活を送っていただけるよう、スタッフ一人ひとりの持っている知識と技術を活かしています。また、家庭に戻られてからの生活がより健やかであるよう、スタッフ一同で応援しています。



周産期外来

妊婦を対象に、妊娠・分娩・産後の経過や、母乳育児がスムーズにいくよう保健指導を行っています。



母乳外来

母乳育児を推進しています。退院後 1 週間頃、お母さんと赤ちゃんの状態を見て様々なアドバイスをしています。

助産師外来

2017 年 4 月より開設しました。助産師が妊娠 38 週の妊婦を対象に、ゆっくりと時間をかけて妊婦健診(超音波・モニター・DVD 鑑賞・フットスパ・内診)を行っています。今後は回数を増やす予定です。



超音波検査をしているところ

マザークラス(両親学級)

マザークラス(両親学級)では、「妊娠中の食事」・「母乳」・「お産」について指導を行っています。当院で出産されない方も、希望があれば受け付けています。

第1土曜日: 栄養について
第2土曜日: 母乳栄養について
第4土曜日: お産について
祝日の場合は日程が変更になることがあります。



直接授乳についての指導をしているところ

*2018年1月に無侵襲的出生前遺伝学的検査(NIPT)外来が開設しました。
お母さんの採血で胎児の染色体異常がわかります。

(記: 1 号棟 4 階西病棟 師長 荒木 洋美)

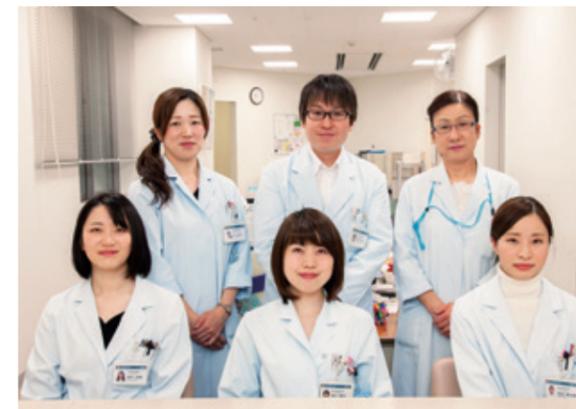
スペシャリスト紹介 (ソーシャルワーカー)

ソーシャルワーカーとは

ソーシャルワーカーとは、「暮らし」の中で生じる生活、医療、介護、福祉等の問題について患者さんご本人、ご家族とその改善や解決に向けて一緒に考えていく専門の相談員です。

私たちは、ご相談にこられた方の「生きかた」や「このように生活していきたい」というお気持ちを尊重して、お一人おひとりに相談支援をしています。

日中は相談室入口の扉を開けておりますので、患者さん、ご家族の方はお気軽にご利用ください。



ソーシャルワーカースタッフ

一緒に考えていくご相談内容の一例



患者さん、ご家族へのメッセージ

ソーシャルワーカーは、個別の支援を大切にして誠心誠意対応をしています。病院の中で医療や福祉のことまたはどこに相談すれば良いかわからないこと、家族にも相談しにくいことがありましたら、病院 1 号棟 1 階のソーシャルワーカー相談室にご相談ください。ご本人の承諾なしに情報を外部に漏らすようなことはありません。また、相談料はかかりませんのでご安心ください。相談用の個室も完備しています。



退院された患者さんから相談室へ
寄贈いただいた作品(贈: 横井清子さん)

(記: 地域医療連携事務課 医療福祉担当 高木 雄介)

お知らせ

研修医・指導医紹介

病院中央棟を使用した多数傷病者受け入れ訓練

地震や大型バスの事故などで短時間に多数の傷病者が発生すると、日常の医療対応ができなくなります。それが医療における「災害」です。しかし、その中でも、一人でも多くの命を救わなければなりません。そのためには、誰を先に診療するのかなど、順番を決めて効率的に対応することが必要です。この順番を決めることを「トリアージ (triage)」といいます。これはフランス語でコーヒー豆の選別に使われた言葉で、現在の医療では重症度・緊急度を素早く見分けて優先順位を決める意味で広く使っています。日本では写真のようなタグを付けて、一目で傷病者の状態が分かるようにしています。

当院では普段から非常事態に対応できるよう心掛けて訓練を行っています。傷病者を診るだけでなく施設を有効に使い、効率的な診療の流れを作ることも重要です。この度 2017 年 7 月に新たに完成した病院中央棟の有効活用を目指して 9 月に訓練を行いました。のと里山海道で大型バス事故が発生したという想定で職員 90 名が参加し、22 名の傷病者を同時に受け入れる訓練を行い、今後役に立つ課題を見つけることができました。特に非常事態時には皆様のご協力も大切ですので、ご理解いただけますようお願いいたします。



トリアージタグ

(記：救命救急科 科長 和藤 幸弘)

総合医学研究所市民公開セミナー 「再生医療で変わる未来」と心筋シートの展示

2017 年 10 月 21 日 (土) に北國新聞 20 階ホールにおきまして、金沢医科大学総合医学研究所と北國新聞社の主催、金沢医科大学細胞治療プロジェクト共催で再生医療に関する市民公開セミナーが行われました。本学再生医療センターの石垣靖人教授と下平滋隆教授に加え、特別講演として大阪大学教授・日本再生医療学会理事長の澤芳樹先生が解説されました。細胞培養の基礎から金沢医科大学で開発を進めている脂肪由来幹細胞治療法、大阪大学が開発した心筋シートの紹介など多岐にわたり、150 名近い聴衆が集まって大変な盛況ぶりでした。講演もさることながら、澤先生のご厚意で講演会場に iPS 細胞から作製した心筋シートが展示されており、生きてゆらゆらと拍動する心筋シートにたくさんの方々が惹きつけられていました。心筋シートは翌週に本学の再生医療センターでも展示されて、70 名を超える方々に最先端の治療ツールを直接見ていただくことができました。



iPS細胞から作製した心筋シートの展示

(記：総合医学研究所 教授 石垣 靖人)

研修医紹介



1年次初期臨床研修医
山之内 僚(やまのうち つかさ)
富山県出身

【医師を志したきっかけ】

人の命と一生向き合うことに憧れを抱きながら、不安もあり、決心がつかない状態での大学受験でしたが、6年間で得た知識はどれも興味深く、純粋に医学に興味を持ちました。そして臨床実習を通して患者さんと関わる喜びを知り、自分のやりたかったことは

まさにこれだと強く感じました。人の人生に大きく関わることは責任重大であり大変なことですが、それ以上にやりがいや喜びを感じています。

【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

先日、短い期間ではありましたが産科婦人科で研修させていただき、出産を楽しみにする気持ちと長期入院の不安な気持ちを、患者さんから打ち明けられたことが印象的でした。また、わが子を命がけて産もうとするお母さんの姿にも心を強く揺さぶられました。周産期医療だけでなく、内分泌や腫瘍など幅広い分野に及んでいることに加え、若年から高齢者までの女性の一生に寄り添った医療を行えることを知り、同じ女性としてとても魅力的に感じています。

指導医紹介

腎臓内科
藤本 圭司(ふじもと けいじ)
香川県出身

【最近の研修医の指導について感じていること】

専門医制度が劇的に変化している中で、一番ストレスを受けているのは研修医ではないでしょうか。私の研修医時代のようにのんびりとしている暇はなく、早くに進路を決めて勉強しなければ、その後のキャリア形成(学会専門医・指導医資格取得など)に支障をきたす厳しい時代です。しかし、最近の研修医は自ら定めた将来像に向かってやるべきことを着実にこなす優秀な方が多いと感じており、私も見習わなければと思います。

【自分の研修医時代との違い】

私は現行の卒後臨床研修制度施行 1 年目に研修医となりました。私の妻はそれ以前の研修医暗黒時代?を経験した医師であり、彼女の話や聞くと私がいかに恵まれた環境で研修医時代を過ごせたか分かりました。また、充実した研修プログラムの中で、特定の分野に偏りなく内科のみならず外科、産科婦人科、小児科、救命救急科、地域のクリニック、保健所等で幅広く研修させていただいたことは貴重な経験となりました。多くの方々の努力によって、年々金沢医科大学病院臨床研修プログラムは洗練され、益々魅力的なものになってきていると感じています。医学部 6 年生には、是非、金沢医科大学病院臨床研修プログラムを選択していただき、研修終了後には金沢医科大学を牽引していく医師になられることを期待しています。